

## 2024\_0819「七島八島（写真）」日々の理科 3665号

お茶の水女子大学 サイエンス&エデュケーション研究所 田中 千尋

友人と教材用の黒曜石を採取に行った時に、「八島湿原」に寄りました。「ビーナスライン（自動車道）」の無料駐車場から徒歩数分で湿原の高原景観に出会える、すばらしい場所です。

この場所には2つの思い出があります。一つ目は中学1年の林間学校で、初めて訪れた時です。学年担当の地理の先生が一人一枚の地形図を配って、このあたりの地理や地質について事前に詳しく教えてくれたのです。黒曜石や鉄平石（輝石安山岩）を拾えることも知りました。二つ目は、2018年に6年を担任した時に、林間学校で子どもたちを連れて歩いた時です。植物、昆虫、岩石などを観察し、水彩スケッチも楽しみました。

すでに「高層化」が進み、「湿原」というよりもほとんど「草原」になっています。それでも駐車場に近い一角には「池塘（ちとう）」があり、いわゆる「浮島」が点在しています。その景観から「七島八島（ななしまやしま）」とも呼ばれています。遠くに見えるのは霧ヶ峰の主峰「車山（くるまやま）」で、山頂の建造物は「気象レーダーのドーム」です。

私は浮島というのは本当に池に浮いていて、風や水流で場所を変えたり、大きさも変化するのだと思っていました。しかし、何十年も前の航空写真と今の様子を比較しても、ほとんど変化がないのです。「浮島」とは言っても、実は水草の根や茎で水底に「係留」されているのかも知れません。

(2024年8月上旬／長野県霧ヶ峰八島湿原)

